

第5学年 図画工作科学学習指導案

日 時 令和3年9月3日(金)
子ども 5年

I 題材名

進め！ローラー大さくせん（絵）
（心をひらいて5・6上 開隆堂）

<授業の見どころ>

表現の途中で鑑賞をすることによって、表現したいことを明確にしたり、考えを広げたりしていきます。

II 題材の指導構想

1 題材について

- 子どもたちは、図画工作の学習を楽しみにしており、毎時間の学習に積極的に取り組んでいる姿が見られる。自分が考えていたことを表現することができた時、満足感や喜びを感じている様子が見られる。しかし、すぐに自分の表現に満足して完成だと思い、自分の表現をさらによりよいものに工夫したり、自分の考えや表現したいことをしっかりとをもって取り組んだりすることが苦手な子どももいる。

これまでの学習において、題材「わたしの住む町」（絵）では、寺町の町並みの中にあるものの形や色、奥行きなどの特徴をもとに、自分の表したいもののイメージをもちながら絵に表すことを学習した。題材「みんなでたのしく、ハイ、ポーズ」（立体）では、試行錯誤の時間を設けることによって、自分が表したい動きのあるポーズについて表現することを学習した。また、題材「My キャラが動き出す」（工作）では、友達と協力してオリジナルキャラクターの動かし方や撮影の仕方を工夫する中で、自分たちが考えているアニメーションをより面白くしようと話し合う姿が見られた。さらに、5月に学年で行った林間学校の取組では、キャンプファイヤーで発表する学級の出し物について、ダンスの振り付けを工夫するなど、協力してよりよいものをつくり上げようとする姿が見られた。これらの学びの文脈を生かし、今後は自分の考えていることや表現したいことを明確にし、様々な材料や方法を組み合わせながら、自分なりの表し方についてさらに追求していく必要がある。

- 本題材は、ローラーの特徴を生かして絵に表すことを通して、形や色、方法や材料を知り、工夫して表す力を培う題材である。

本題材ではローラーを扱う。ローラーに絵の具をつけて画用紙の上を転がすことによってできる形と色に着目し、友達とかかわりながら、様々な方法を試していく。題材「みんなでたのしく、ハイ、ポーズ」（立体）では、粘土をねじったり、ひねり出したりして、動きのあるポーズを試す中で、自分のイメージに近づくように表現することができた。また、題材「My キャラが動き出す」（工作）では、友達と話し合いながら、紙粘土でつくったオリジナルキャラクターの体の一部や立ち位置を動かして、よりよい作品をつくろうと工夫する姿が見られた。そのような学びの文脈を生かし、ローラーを使って様々な方法を試したり、友達の作品を鑑賞したりして自分の表現にすることは、造形的な見方・考え方を高める上で必要性があり、付けたい力と照らし合わせて、適切な題材と言える。

- 指導に当たっては、次の二点に留意する。

一点目は、**思いを大切にしたい必要感のある鑑賞の場の設定【手立て1】**についてである。子どもたちが能動的に鑑賞することができるよう、自分のテーマに向かってローラーを用いて表現している途中で互いに見合う時間を設ける。友達の作品から自分の作品に生かしたいと思い、自分の表現に自信をもつことを通して、残りの表現の活動をより思いをもって取り組むことができるようにする。**全校研究とのかかわり「つなぐ」「えらぶ」「つかう」**

二点目は、**段階的な鑑賞の設定と視点の明確化【手立て2】**についてである。鑑賞後の表現活動に役立てるために、特にも「つかう」の視点を意識した直接的な発問をする。友達の作品を味わい、自分の作品に取り入れたいところについて、図工の宝箱を活用して話し合うことによって、造形的な見方・考え方を働かせて思いを表現することができるようにする。

全校研究とのかかわり「つかう」

2 学びの文脈に基づいた題材構想図

題材の目標 絵

ローラーを使ってできた形や色から想像を広げ、様々な材料や方法を組み合わせた表し方を工夫するとともに、作品の造形的なよさや面白さ、表したこと、いろいろな表し方などについて感じ取ったり考えたりする中で、たのしさを味わいながら自分なりの表し方に取り組む。

題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
絵	<p><知識> ローラーを使った表現を通して、形や色の組み合わせとそこから生まれるバランスや色の鮮やかさなどを理解している。</p> <p><技能> ローラーによる表現の特徴を生かして、様々な材料や方法を組み合わせた表し方を工夫している。</p>	<p><発想や構想> ローラーを使ってできた形や色から想像を広げ、表したいことを考えている。</p> <p><鑑賞> ローラーを使ってできた形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>ローラーを使って表すことのたのしさを味わい、自分なりの表し方に取り組もうとしている。</p>

復興教育との関連

- **いきる「③価値ある自分」**
自分が表現したいことや想像したことを話したり共有したりすることで、より価値ある自分に気付かせるようにする。
- **かかわる「④仲間とのつながり」**
表現や鑑賞の場面で、友達と関わりをもちながら表したいものを決めたり、表し方を考えたりするなど、仲間とつながるよさを意識する。

他教科・領域等

- 音楽** 5年2月
「音階の音で旋律づくり」
・日本の音階からなる旋律の組み合わせを工夫しながら、まとまりのある旋律をつくる。
- 行事** 5年11月「全校音楽集会」
・よりよい表現をするにはどうしたらいいか考えたり、学んだことを表現したりすることができる。

教科の学習内容

2年2月
「いっぱい
うつつして」(絵)
型紙を使って重なりや
写し方を工夫して
絵に表す。

3年5月
「さわって
わくわく」(絵)
材料の組み合わせ
方を工夫し、触
った感じを生か
して絵に表す。

本題材 5年9月
「進め！ローラー
大ぼうけん」(絵)
ローラーの特徴を
生かして形や色の
組み合わせを考え
ながら絵に表す。

6年10月
「ひびき合う形と色
求めて」(絵)
スチレンボードの特
徴を生かして版をつ
くったり、刷ったり
しながら絵に表す。

他教科・領域等

音楽 5年7月
「打楽器でリズムアンサンブル」
・打楽器の音色の組み合わせやリズムの重ね方、音の出し方を工夫し、即興的に表現したり、まとまりのあるリズムアンサンブルをつくったりする。

行事 5年5月「林間学校」
・場に応じた行動の仕方を身に付けるとともに、仲間を思いやり、共に協力し合ったりしながら活動を行う。

見方・考え方を働かせるポイント

- **友達の考えの中にヒントがあるというとならえ**
自分の発想ももちろん大切だが、友達の考えの中にも工夫したポイントがつかまっており、その考えの中から自分に取り入れたいものがある場合には積極的に取り入れるようにする。

願い

- ・友達の作品からよさを見つけ、自分の作品に生かしたい。
- ・自分が想像したことを表現できるようになりたい。
- ・安全に楽しく学習したい。

教科の力

- 図画工作の学習を楽しみにしており、毎時間の学習に積極的に取り組んでいる子どもが多い。
- 自分が考えていたことを表現することができた時、満足感や喜びを感じている子どもがいる。
- すぐに自分の表現に満足して完成だと思い、自分の表現をさらによりよいものに工夫しようとする子どもがいる。
- 自分の考えや表現したいことをもって取り組むことが苦手な子どももいる。

子どもの実態

3 題材の指導及び評価の計画（全4時間）

時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	評 価				
			知 技	思 判 表		態 度	評価規準 (評価方法)
				発想や 構想	鑑賞		
1	○作例を見て、ローラーに何を巻き付けて表現したのか予想する。 ○さまざまな方法を試しながら画面に表す。 ローラーを使って表現した色や形 ○振り返りをする。	手立て1 思いを大切にしたい必要感のある鑑賞の場の設定 ◆子どもの驚きやワクワク感を引き出すような作例の提示 →【つなぐ・えらぶ・つかう】	○		◎	ローラーを使って表すことのたのしさを味わい、自分なりの表し方に取り組もうとしている。 〈作品・活動の様子〉	
2	○前回の振り返りをもとに、さらにさまざまな方法を試しながら画面に表す。 ローラーを使って表現した色や形 ○途中の作品を見合い、気付いたことや自分の作品に取り入れたいところを見付ける ○自分のテーマを決める。 ○振り返りをする。	手立て1 思いを大切にしたい必要感のある鑑賞の場の設定 ◆表現している場面での鑑賞 →【つなぐ・えらぶ・つかう】 手立て2 段階的な鑑賞の設定と視点の明確化 ◆学びの段階を意識した発問 →【つかう】	◎	○	○	ローラーによる表現の特徴を生かして、様々な材料や方法を組み合わせた表し方を工夫している。 〈作品・活動の様子〉	
3 (本時)	○自分のテーマを確認する。 ○テーマに沿って画面に表す。 ○途中の作品を見合い、気付いたことや自分の作品に取り入れたいところを見付ける。 ローラーを使って表現した色や形 ○さらにテーマに沿って画面に表す。 ○振り返りをする。	手立て1 思いを大切にしたい必要感のある鑑賞の場の設定 ◆表現している場面での鑑賞 →【つなぐ・えらぶ・つかう】 手立て2 段階的な鑑賞の設定と視点の明確化 ◆学びの段階を意識した発問 →【つかう】		◎	○	ローラーを使ってできた形や色から想像を広げ、表したいことを考えている。 〈作品・活動の様子〉	
4	○自分の作品を完成させる。 ○互いの作品のよさや面白さ、表し方などについて伝え合う。 ローラーを使って表現した色や形 ○題材全体の振り返りをする。	手立て1 思いを大切にしたい必要感のある鑑賞の場の設定 ◆自分の思いを大事にしたり、思いを実現したりしている子どもの紹介 →【つなぐ・えらぶ・つかう】		○	◎	ローラーを使ってできた形や色などの組合せによる感じを基に、自分の見方や感じ方を広げている。 〈作品・活動の様子〉	

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

III 本時の指導

1 目標

- ローラーを使ってできた形や色について、友達作品を見て気付いたことや取り入れたいことを考え、自分の作品に生かそうとする。

2 評価規準

【思考・判断・表現】

＜発想や構想＞

ローラーを使ってできた形や色から想像を広げ、表したいことを考えている。

＜努力を要する状況の児童への手立て＞

ローラーを使ってできた形や色から、友達作品を見て自分では思いつかなかった方法や面白いと思った表現は何かを聞き、より自分のテーマを表すにはどうしたらよいか、表現途中の作品を見ながら考える。

3 展開 (3 / 4 時)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	<p>1 自分のテーマを確認する。 ○前回の学習を振り返って、自分が表したいテーマを確認しましょう。</p> <p>2 課題の設定 ローラーを使って、自分が思い描いたテーマを表そう。</p>	5 2	<p>◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応</p> <p>前回、自分のテーマを「光」にした。プチプチマットをローラーに巻いて「光」を表現しよう。</p>	<p>・振り返りシートを見ることで、子どもたち一人一人が思いをもってつくることができるようにする。</p>
展開	<p>3 課題の解決 ・テーマに沿って画面に表す。 ○自分が思い描いたテーマを、ローラーを使って表していきましょう。</p> <p>・途中の作品を見合い、気付いたことや自分の作品に取り入れたいところを見付ける。 ○友達作品を見て、これから自分の作品はどのようにしていきたいですか。</p> <p>・さらにテーマに沿って画面に表す。 ○友達作品から気付いたことをもとに、自分の作品をつくりましょう。</p>	1 2 7 1 4	<p>◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応</p> <p>手立て1 思いを大切にしたい必要感のある鑑賞の場の設定 ◆思いを強くもって取り組むことができるように、表現の途中で互いに見合う時間を設ける。 →【つなぐ・えらぶ・つかう】</p> <p>手立て2 段階的な鑑賞の設定と視点の明確化 ◆造形的な見方・考え方を働かせて思いを表現することができるように、学びの段階を意識した直接的な発問をする。 →【つかう】</p> <p>〇〇さんの作品は黄色と赤を混ぜずに使って、「光」というテーマの中にも太陽を表していた。自分も青と緑を使ってみよう。</p> <p>△△さんがプチプチマットを使って表していたところが自分の「悲しみ」というテーマに合いそうだから取り入れてみよう。</p>	<p>・自分のテーマを表現するために必要な材料をすぐ使えるように材料コーナーを用意する。</p> <p>・互いの作品を見る時間を確保するために、3～4人程度のグループで作品を見合う。</p> <p>・全体発表の場では、友達作品を紹介する際に、テレビ画面に映し出し、全体で鑑賞することができるようにする。</p> <p>思判表 【発想や構想】 〈作品・活動の様子〉</p> <p>・新たな表現方法を十分に試すことができるよう、材料を用意する。</p>
終末	<p>4 振り返り ○自分のテーマを表すためにどんな表現の工夫をしましたか。</p> <p>【振り返りの表現例】 ・〇〇さんのアイデアを使って、自分のテーマにさらに近づく作品をつくることができた。 ・自分のテーマを考えながら作品をつくることができた。友達作品を見ることでさらに自分のテーマを考えることができた。</p>	5	<p>◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応</p>	<p>・課題に沿った振り返りができるように、図工の宝箱で振り返りの視点を確認する。</p>

